



◆ 顧問・関与先様各位 「ろーどニュース」2月号を配信いたします。今月もよろしくお願い申し上げます。

2019年4月より「ふじさんBu-Bu保育園」が開園します！

ふじさんBu-Bu保育園は、当事務所の顧問先である株式会社キャリアドライブ様（静岡県富士自動車学校）が運営する企業主導型保育園で、本プロジェクトの立ち上げに伴い、私もプロジェクトのマネージャーとして携わらせて頂いております。

当保育園に関する全てのスタッフの合言葉は「やってみたい！の応援団」。富士山の麓、新しく綺麗な園舎で一緒にお子様の「やってみたい！」という気持ちを育ててまいります。オープンに伴い園児の募集を開始しています。0歳から2歳までのお子様であればどなたでも入園できます。ぜひ一度ウェブサイトをご覧頂けたら幸いです。<https://fujisan-bu-bu.jp/>

保育園立ち上げに伴い、キャリアドライブ様が一番大切にしたいのがコンセプトの共有です。それを達成するためにいくつかの取組を展開しており、私も参画をさせて頂いております。その中の1つが保育理念の策定です。園長はじめ保育士の先生とヒアリングを重ね、以下のような質問を繰り返しさせて頂きました。「私たち保育園は何のために存在するのか、何を成し遂げたいのか。そのために保育士の皆さんと共有すべき理想の保育園とはどんな園なのか。その理想の保育園を目指すためには保育士はどんな行動をとるべきなのか。そのために必要なものは何なのか。」一つひとつの問いへの答えを整理し、スタッフが大切にすべきコンセプトの共有を積み重ねてまいりました。

楽しくも真剣な対話の中から生まれたのが合言葉である「やってみたい！の応援団」であり、保育園のネーミングである「ふじさんBu-Bu保育園」です。ふじさんBu-Bu保育園のスタッフはまずは自らが「やってみたい！」という主体性を大切に、保護者、地域、企業の皆様との連携を大切にしております。園舎はまだ工事中ですが施設見学を随時受付（ウェブより申込）しております。可能な限り私も一緒にご案内をしております。ぜひ一度遊びにきてください！



第6回 今月の「働くみんなのおしゃべりナイト」

毎月第一水曜日に「遊び、学び、つながる。」をテーマに、フジノヤマカフェ (<http://fujinoyamacafe.com/>)にて、若手ビジネスマンが集まるイベントを開催しています。目標である50回に向けて2019年も元気にスタートしました！



◇ゲストスピーカー

影島 皓太さん

(ジャトコ株式会社情報システム部)

- ・システムづくりとは
- ・目的と手段の違い
- ・ITを活用した未来の労働環境
- ・趣味の写真について etc

<https://www.jatco.co.jp/> [ジャトコ(株)]



第7回は2/23の富士山の日に、ある学生イベントとタイアップして行います。数年後には社会人の仲間となる大学生とより盛大な「働くみんなのおしゃべりナイト」を企画しています。今回はゲストスピーカーも大学生です。興味ある若手ビジネスマンはお気軽にお問合せください！ <https://office-road.jp/inquiry/>

これってパワハラ？みんなで考える職場づくりセミナー

セミナー依頼が急増しております。新年からは、毎週「パワハラ」をテーマとしたセミナーを実施させて頂いております。この背景には、早ければ今年中に国がパワハラを防ぐための対策を企業に義務付け法制化する方針であること。また、身近でパワハラのトラブルが起こっていること等が想定されます。



パワハラは指導との線引きが難しく、自分ひとりでは気をつけるには限界があると考えます。そのため職場の仲間とパワハラについての知識を共有しておくことが重要であり、そのための手段として研修会が効果的ということになります。

なぜかという、知識を共有しておくことで仲間から「さっきのあなたの部下への指導は、相手はパワハラと捉えられているかもしれないよ」とアドバイスをすることができます。「そんなことない」と思いながらも、胸に残り、自らの言動を注意することにも繋がる可能性があります。自分だけでは見えない自分は確実にいます。パワハラはチームで取り組むべき課題です。パワハラの研修の実施をご希望されるお会社様は、ぜひお気軽にご相談ください。 <https://office-road.jp/inquiry/>



「致知/2月号」から学ぶ人間学

人間学とは自分は何のために生きているのか。なぜ働くのか。そのような答えのない問いを繰り返し、自らの思考・感情・行動を一致させていく学問ではないかと私は考えます。人間学を学ぶ購読紙「致知」より、毎月の学びを共有させていただきます。

<https://www.chichi.co.jp/info/> (致知)



【今月の学び】勇往向前（ゆうおうこうぜん）、
一日は一日より新たならんことを欲す。

人は昨日より今日、今日より明日と勇気をふるって日々成長していくことが大事である。そういう意識や行動があってこそ、自分も世の中も変わっていくのであろう。

（感想）

昭和を代表する多くの財界人に師と仰がれた安岡正篤（やすおかまさひろ）氏の次の言葉に感銘を受けました。

「人間の徳性の中でも根本のものは活々している。その人に接すると、自分までもが気が爽やかになるという、これが人物の最も大事な要素だ」。

ではどうしたらそんな人格になれるのか。安岡氏の言葉は続く。

「やはり、人間は精神を集中して全身全霊をなにもものに打ち込まなければ、精神も磨かれぬし、本当の力も発揮できない。」
あらためて人間力の差は苦勞の差であることを痛感いたします。

近々お子様が生まれる男性社員様はいますか？

国では、男性の育児休業取得率を2020年までに13%とする目標が掲げられており、厚生労働省では男性の育児休暇取得を推進しています。現在は5.14%（2017年度）です。

男性社員様が、お子様が生まれてから8週間以内に5日間の育児休業（無給または有給）を取得する場合、両立支援の助成金が支給されます。会社様も社員様も嬉しい助成金です。

【参考】

1人目の育児休業者 57万円（72万円）

2人目の育児休業者 14.25万円（18万円）

（ ）は生産性要件に該当する企業の場合



お気軽にご相談ください。受給手順のご案内をいたします。

<https://office-road.jp/inquiry/>



助成金を活用し、新入社員研修の準備をしましょう

人材開発支援助成金とは、事業主様等が雇用する従業員様を対象とし、職務に関連した知識や技能を習得させるための訓練や研修を計画的に行った場合に、訓練経費や賃金の一部を助成する制度です。様々なコースがありますので、ご相談いただけましたら、会社様のニーズに適合するコースやプランをご提案いたします。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/kyufukin/d01-1.html

昨今の新卒の売り手市場を鑑みると、新入社員や若手社員の職場定着は会社にとって重要な課題です。

特に新入社員研修は、その後の社会人としてのモチベーションや仕事の方法を決定づける重要な役割を果たします。

助成金を活用し、計画的に準備されることをお勧めします。

【新入社員研修プログラム例】

- ・ 基本的な心構え / 学生と社会人の違い
- ・ 効率的な仕事の進め方 / チャレンジ精神
- ・ 身だしなみ / 正しい言葉遣い
- ・ 報告、連絡、相談 / 訪問のマナー
- ・ メールの書き方 / 電話対応の方法
- ・ 接客対応 / 名刺の扱い方
- ・ PDCAの実践方法 / 目標の策定 など



体育会系社労士としてご紹介頂きました

ご縁を頂き、躍進企業応援マガジンCOMPANY TANK 2019年1月号にて「体育会系社労士」としてご紹介頂きました。宜しければ記事をご覧ください。

<http://www.companytank.jp/interview/201901/14023/>



顧客の些細な悩みに迅速に対応
挑戦を続ける体育会系社労士

ろーどでの眩き/『幸せ』と『辛さ』は表裏一体

仕事始めの日から光栄なお仕事を頂き、2019年は非常に気持ちの良いスタートをきることができました。1月4日、日頃より大変お世話になっている海野幸男先輩が社長を務める株式会社イーシーセンター様にて「これってパワハラ？みんなで考える職場づくりセミナー」を実施させて頂きました。

パワーハラスメントは線引きが難しく、まずは誰もが行為者にも相談者にも成り得るという意識を持つことが大切という考え方に基づき、以下の内容についてお話をさせて頂きました。

- ・ パワハラ定義及び類型について
- ・ 動画の事例はパワハラかどうかを考える
- ・ 裁判事例から学ぶパワハラ線引きポイント
- ・ パワハラに関する現状とその与える影響について
- ・ パワハラ防止に向けた対策と具体的な取組
- ・ 今日から使える「話を聴くテクニック」

帰り際に応接室にて海野社長とお話をする機会に恵まれました。ふと最初の出会いのことを思い出しました。約10年前の前職時代、担当していた青少年教育事業の協力を依頼するため、この応接室にてお話をさせて頂いたのが最初の出会いでした。その際に今も忘れることのないインパクトあるメッセージを頂きました。それからというもの、不思議なほど、節目ごとに海野社長と接する機会を頂き、その都度、私としては大切なメッセージを頂いてきたと感じています。

その中でも最も印象深いのが、昨年夏に5泊6日の研修を共にした中学生に語り掛けていた言葉です。「私の名前は幸男です。これは幸せという字ですが、辛いという字にも似ている。これまでの人生を振り返り思うこと。それは本当の幸せとは、辛くて、辛くて、どうしようもなく辛い状況の中、それでも一歩を踏み出した時に一が足されて、『辛』から『幸』になる。辛くても一歩を踏み出していきましょう！」それ以降、私は『幸せ』と『辛さ』は表裏一体と捉えるようになり、辛さは幸せの良き前兆と考えるようになりました。新年のはじまりに、この気持ちを思い出せる機会を頂いたことに深く感謝しております。

<https://www.ec-center.co.jp/> [株イーシーセンター]

